

神小だより

第7号

令和6年10月17日



今後とも実り多き教育活動等となるようご支援とご協力をお願いします

朝夕の風を肌寒く感じるようになり、校庭の桜の葉も散り始め、これからいよいよ秋本番、実りのシーズンの到来です。

過日の運動会では「自分のため 仲間のため 力を合わせて ゴールイン」のもと、スローガンのごとく、仲間とともに全力で練習に励み、心と体を鍛え、技を磨くことができました。教職員も、日々の練習や運動会のなかで、子供たちの確かな成長を実感しました。

運動会を自分たちの手で創り上げるという思いと意気込みを込め、6年生が主体となって、入場の方法や仕方を変えました。神領小学校の新たな歴史の幕開けとなる運動会にしてくれた6年生の皆さんに感謝です。また、保護者・ご家族の皆様や地域の方々のご支援とご協力に感謝申しあげます。皆様方の心温まる声援の中に、一生懸命に取り組んだことは、子供たちの心に、最高の思い出として刻まれました。

気が付けば、稲刈り、バス遠足、楽焼き、人権集会などの行事も終わり、早10月中旬を迎え、時の流れの早さに驚きます。今後も、アドプト活動、栽培活動、各学年の体験学習等と、多様な学びが目白押しです。



地域の行事・社会体育で活躍しました



神山ルーキーズの活躍に、ワクワク、ドキドキしました



子供が演じる三番叟、日本舞踊を初めて観て心がときめき感動しました



おじいちゃん、おばあちゃんへの手紙の朗読に、涙が出ました



神山 JVC、ブロック3位の活躍！みんな、いい顔しています！！

今月は、地域においても、引き続き社会教育・体育、秋祭り等の行事が多く開催されることでしょう。子供たちが積極的に参加して、たくさんの人たちにご支援いただきながら出番や役割を果たし、様々な人と有意義な交流ができる機会となることを願っています。

ようこそ！
神領小ホームページへ



本校HPへお立ち寄ください。
随時更新をしています。

様々な学習活動での子供たちの様子・学びをご覧ください。

郡小陸上運動記録会で学んだこと（たとえ中止となっても。。。）

記録会当日とその予備日も雨天で、今年度の記録会は中止となり、子供たちは、残念で悲しい気持ちでいっぱいだったにちがいありません。思う存分走って、跳んで、投げたかったことでしょう。その日の1校時の授業は、残念な思いを引きずり、教室も少しどんよりした雰囲気だったようです。

しかし、中止が決まった朝に、日々の練習でお世話になった先生方のところに向き、感謝の言葉を伝えていました。残念な気持ちが残る中、子供たちの誠実な行動に感動しました。本当になかなかできないことです。子供と教師が共に学び合う一体感を実感する瞬間でした。5・6年生全員で、これまで練習してきたことは、記録会では発揮できませんでしたが、この子たちならきっと、これからの学校生活・学習にいかしていくと確信しています。



人権集会で学んだこと

10月16日、徳島県人権啓発推進員の久保修さんを講師にお迎えし、演題「心のバリアフリー」で人権集会を開きました。久保さんは、生まれた直後に脳性小児まひを発病し、両手・両足・言語に障がいがあります。障がいと向き合いながらこれまでの人生で経験したことをもとに、子供たちにお話をいただきました。

お話しの中で、「障がいがあることは不便だが、不幸ではない」「自分を見て、周りの人からかわいそうと思われるのが一番嫌、かわいそうかどうかは自分が決める」の言葉がとても印象に残りました。子供たちの幸せな生き方につながる言葉であると感じました。

最後に、久保さんから神領小学校の子供たちに魂のメッセージをいただきました。

- ・自分やまわりの人の良いところを見つけてください。
- ・自分やまわりの人を大切にしてください。
- ・親から授かった、たった一つの命を大切に生きてください。

このメッセージをを大切に、元気で幸せいっぱいの神領小学校にしていきます。

校長室から ～「身に付けておきたい習慣」～

子育てをとおして考えること。私には二人の子供がいます。二人とも学生で、幼き頃からの夢を実現するために、未だ学びの途中です。私も親として、子の幸せを願って、すねが激痩せするがごとく、せっせと貢いでいる途中で、子育ての真っ最中です。

長男が大学に入学した頃の、とあるの新聞コラムに、大学の学部長1154名を対象に「大学生が、高校時代までに身に付けてほしい基本習慣」を訊いたアンケート調査が掲載されていました。それによると、最も多かったことは「読書、毎日新聞を読む」でした。背景には、学生の活字離れの深刻な状況があり、それは現在においてもさらに深刻かつ慢性化している状況です。新聞等を読まずとも、情報は動画サイトやSNSでも情報は得られます。しかし、偏向していたり、内容を深く掘り下げての解説が成されていなかったりします。また、自己の意見形成をする上での大切なツールを身に付けることができないこと等への懸念や危惧するところもあります。

アンケート調査は、さらに「時間を守る」「あいさつができる」「規則正しい生活・睡眠」「三食きちんと食べる」「社会問題に興味をもつ」とありました。これらのことは私にとって「当たり前のこと」と思っていたのですが、そうではないようです。私が思う「当たり前」が、一蹴された気持ちになりました。

本校では、2学期より「当たり前のことを当たり前でできる人になろう」「挑戦する人になろう」「読書をする人になろう」を目標に取り組んでいます。先日登校時の玄関前での子供たちのやりとり。「知らないうちにくっつき草を付けられていたこと」に対して、嫌気がさして「こんなことしたらあかんやろ」「当たり前のことを当たり前にしちんしょうや」と。子供たちの意識の中に「当たり前」が少しずつ浸透しています。当たりの捉え方に多少の差異はありますが、人と人との間をつなぐ「人間」となれる正しい力を当たり前と捉え、身に付けていかなければなりません。

自身の子育ての反省等も含め、高校時代までに身に付けてほしい習慣は、小学校時代にこそ身に付けさせていきたいと考えています。6年間の中で、発達段階に応じながらそれらを身に付けるとともに、強化していきたいです。このことについて、ご家庭とも共有して、「読書をする」「時間を守る」「あいさつができる」「規則正しい生活・睡眠」「三食きちんと食べる」「社会問題に興味をもつ」「人の嫌がることはしない」を当たり前にしていきたいものです。